

# 郷土資料館だより

Vol.37 No.1  
2014.8.1

## 企画展示室 「郷土資料館収蔵美術品展」開催中

- 会 期 平成26年7月19日(土)～9月15日(月・祝)
- 会 場 郷土資料館1階 企画展示室

郷土資料館では、昨年11月のリニューアルオープンに併せ常設展示の内容を刷新しましたが、常設・企画展示ともに歴史・民俗関係の資料展示が多く、収蔵している美術・工芸品の展示機会は多くありません。

今回の収蔵美術品展では、郷土ゆかりの芸術家や作品に親しんでいただくため、収蔵資料の中から絵画、墨跡、工芸品などを中心に展示しています。

### 主な展示内容

#### ◆梅御殿杉戸絵

楽寿園が小松宮家の別邸であった頃、楽寿館とともに築造されたのが梅御殿です。今回は梅御殿の杉戸絵から三点を展示しています。

「郭子儀図」は、栄達を遂げ長寿だったことから画題として好まれた中国唐代の武将、郭子儀を描いた作品です。戦や政治の世界から離れて子どもたちとくつろぐ姿が見事に表現されています。「藤図」「秋草鶉図」はともに、草花とそこに戯れる鳥たちを優美に描いた作品です。「秋草鶉図」は庭に面した廊下に飾られており、庭と一体となって秋の月見を彩ったことでしょう。

右：「秋草鶉図」



#### ◆名僧の墨跡

名僧白隠開基の古刹、龍澤寺の名僧二人の墨跡を展示しています。

山本玄峰老師は、大正4年から昭和26年まで住職を務め、廃寺寸前だった同寺を復興した中興の祖であり、太平洋戦争終結にあたって「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び…」と提言したことで有名な名僧です。

中川宋淵老師は、玄峰老師の後任として昭和26年から48年まで住職を務め、世界中を行脚してニューヨークに大菩薩禅堂を開くなど、海外布教に尽力されました。また俳句など芸術に造詣が深いことでも知られています。

#### ◆洋画家、栗原忠二

栗原忠二は、大正から昭和のはじめにかけて活躍した三島出身の洋画家です。風景画を得意とし、外国人として初めて英国王立美術家協会の準会員となるなど日英両国で名声を得ました。今回は、彼の出世作となった「月島の月」などを展示しています。



「月島の月」

#### ◆三四呂人形

戦前に活躍した三島出身の人形作家野口三四郎が制作した、主に張子でできた人形です。朝鮮出張旅行がきっかけで、写真店を経営する傍ら人形制作に励み、昭和11年には第1回総合人形芸術展覧会において最高賞である「人形芸術院賞」を受賞しています。受賞作「水辺興談」や娘・桃里をモデルとした「桃子」「里子」などの人形や、水彩画を展示しています。



「里子」



「水辺興談」

## 企画展 「暮らしを彩った機械たち」 報告

- 開催期間 平成26年1月3日(金)～3月16日(日) ●入場者数 7,303人
- 会場 郷土資料館1階企画展示室 ●展示資料数 69点

郷土資料館に収蔵されている昔の生活道具などの中から、今回は「機械」にスポットをあて、「快適に暮らす」「遠くと繋がる」「時を知る」「記録に残す」「映像を楽しむ」「音を楽しむ」「ファッションを楽しむ」をキーワードに、扇風機、電話、柱時計、白黒テレビ、蓄音器、ラジオ、足踏み式ミシンなどかつて人々の生活を豊かに彩ったさまざまな機械を展示しました。



### 関連事業

- ◆「蓄音機でレコードを聴こう」 1月18日(土) 11:00～/13:30～ 参加人数 4人  
展示中の蓄音機でSPレコードを試聴しました。来館者持参のレコードも聴き、なごやかな時間になりました。
- ◆「足踏み式ミシンで縫ってみよう」 1月25日(土) 10:00～15:00 参加人数 13人  
足踏み式ミシンを使ってランチョンマットを縫いました(1人30分程度)。なれない動作にとまどいながらも、みんな自分だけのオリジナル作品を作りあげました。
- ◆「幻灯機であそぼう」 2月22日(土)/3月1日(土)(雪の影響により2月15日の開催を延期) 参加人数 7人  
館所蔵の古いスライドの上映会と幻灯機の工作体験を行いました。古い幻灯機をモデルに厚紙で作った幻灯機を使って、自分で描いたイラストが上映されると、嬉しそうな歓声があがりました。

## 企画展 「三島宿を支えた人々 三島 問屋場・町役場文書から」 報告

- 開催期間 平成26年4月12日(土)～6月29日(日) ●入場者数 10,928人
- 会場 郷土資料館1階企画展示室 ●展示資料数 72点

郷土資料館では、平成25年度に文化庁からの助成を受け三島宿問屋場文書、市役所文書、中郷村役場文書などを「三島 問屋場・町役場文書」として整理・統合しました。今回は、これら資料のうち江戸時代の問屋場文書を中心に展示を行い、江戸時代の宿場や周辺の住民が携わった宿場の仕事(伝馬役)を中心とした三島宿の様子について紹介しました。

展示は、古文書の紹介が中心となったため、展示内容を補助するものとして館所蔵の浮世絵や「三島宿風俗絵屏風」のパネル、矢立・日時計などの江戸時代の旅人の道具(関守敏氏所蔵)、「伊豆国全図」などを併せて展示しました。



展示解説(4/27)

### 関連事業

- ◆「候(そうろう)をさがせ」  
近世の古文書は「候文」とも言われ、古文書の中には「候」の文字が様々なくずし字でたくさん使われています。少しでも古文書に親しみを感じてもらえるよう、古文書の中から「候」の字を探すクイズを用意しました。
- ◆「宿場クイズ お隣とくらべてみました」  
箱根、三島、沼津の3宿場町を様々な事柄で比較し、三島宿の特徴を知ってもらえるようなクイズを展示室内に設置しました。(ペットボトルを握ると答えがわかるようにした浮沈子を設置して、いつでもクイズに挑戦できるようにしました。)
- ◆展示解説 4/27(日)、5/5(祝) どちらも11:00～30分程度 計 10人

## 平成25年度 郷土資料館事業報告

### ●企画展示

展示名	開催期間	主な展示内容	入館者数
郷土資料館リニューアル オープン記念企画展 「偉人たちの足跡を訪ねて」	11月1日(金) ～12月15日(日)	写真パネルによる三島とゆかりのある偉人の紹介 ●三島の頼朝伝説を訪ねて ●武将たちと三島 ●三島を訪れた文人 ●三島を訪れた偉人たち	11,341人
関連事業：三島の歴史・伝説をめぐろう(11/1～12/15) 15人、火縄銃にさわってみよう！(11/1～12/15期間中の土曜日) 43人、紙芝居上演一合戦 山中城(11/1～12/15期間中の土曜日) 96人			
郷土資料館リニューアル オープン記念パネル展 「古今伝授とは？」	11月1日(金) ～11月13日(水)	●三島市・岐阜県郡上市・裾野市・箱根町の古今伝授に関する資料 ●古今伝授に関する人物 ●三島千句などの作品	4,072人
関連事業：講演会「古今伝授のまち三島とは何だ！」(11/4)金子徳彦氏・土屋比都司氏・藤岡武雄氏 77人、講座「俳句を作ろう」(11/6)万年青年句会 (11/7)さつき句会、「連歌を読んでみよう」(11/13)三島宗祇法師の会			
「暮らしを彩った機械たち」	平成26年 1月3日(金) ～3月16日(日)	かつて人々の暮らしを豊かに彩った機械たちを通して、生活の変化や当時の暮らしを紹介 ●快適に暮らす ●遠くと繋がる ●時を知る ●記録に残す ●映像を楽しむ ●音を楽しむ ●ファッションを楽しむ	7,303人
関連事業：蓄音機でレコードを聴こう(1/18) 4人、足踏み式ミシンで縫ってみよう(1/25) 13人、幻灯機であそぼう(2/22、3/1) 7人			

### ●その他の展示

生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」展示、三嶋曆師の館 西小学校郷土資料室

### ●講座・教室・講演会

講座名	開催日	人数	講座名	開催日	人数	
郷土教室	こどもの日体験デー	5月6日(月・祝)	105人	昔のあそび	9月8日(日)	30人
	古代の暮らし	5月12日(日)	80人	昔のどうぐ	10月13日(日)	81人
	昔のどうぐ	6月9日(日)	70人	楽寿園の自然	11月10日(日)	41人
	楽寿園の自然	7月14日(日)	52人	三嶋曆の印刷 講師：三嶋曆の会	11月16日(土)	46人
	子どもと大人の美術体験！ 講師：田中毅氏、富田菜摘氏	7月28日(日)	35人	ワラ細工を作ろう	12月8日(日)	55人
	夏休み体験デー 昔のあそび	8月2日(金)	25人	富士山お手玉を作って遊ぼう	平成26年 1月12日(日)	11人
	郷土資料館 館内探検ツアー	8月2日(金)	17人	昔のどうぐ	2月9日(日)	37人
	夏休み体験デー 昔の暮らし	8月3日(土)	40人	楽寿園の自然	3月9日(日)	67人
ふさと講座	伊豆半島ジオパーク探訪 講師：増島淳氏	5月18日(土)	30人	駿東・伊豆の古墳探訪 講師：長泉町教育委員会学芸員、 三島市郷土資料館長	10月5日(土)	23人
その他	三島環境かるた大会・三島溶岩の顕微鏡観察	2月23日(日)	8人	初めての古文書 古文書入門講座 講師：関守敏氏	11月～3月 第3日曜日	29人
	パネル展 絵と写真で知る三島と富士山	2月20日(木)～28日(金)	793人			

### ●資料の収集、保管状況

平成25年度末現在 収蔵資料総数 36,176点(民俗5,890点、歴史29,962点、美術293点、自然31点)

平成25年度新規受入資料数 24件(内訳：寄贈18件、購入6件)

購入資料：「広重画 東海道五十三次之内 藤枝 人馬継立」、「丹那隧道工事誌」他

### ●郷土資料館耐震補強事業(耐震補強等工事・展示リニューアル) (千円未満四捨五入)

平成25年度 153,384千円 内訳：耐震補強工事(建築) 81,190千円 同(機械設備) 11,316千円 同(電気設備) 20,332千円

展示制作業務委託 30,503千円 収蔵品等搬出搬入業務委託8,000千円 その他(需用費・役務費・備品購入費等)

平成24年度 98,878千円 内訳：耐震補強工事(建築) 51,600千円 同(機械設備) 7,700千円 同(電気設備) 13,300千円

実施設計業務委託(エレベータ) 1,680千円 展示リニューアル計画作成業務委託 1,899千円 展示制作業務委託 13,073千円

収蔵品等搬出搬入業務委託5,650千円 その他(賃金・需用費・役務費・備品購入費等)

平成21年度 1,887千円 内訳：耐震補強工事実施設計業務委託 1,887千円

## 郷土教室・体験イベントの報告

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。平成26年2月から6月までに行った事業をご紹介します。



### 郷土教室「昔のどうぐ」

日 程：平成26年2月9日（日）  
 内 容：石臼、足踏み式ミシン、棹ばかり、  
 かつお節削り  
 参加者：37人



### 郷土教室「楽寿園の自然」

日 程：平成26年3月9日（日）  
 内 容：葉っぱの拓本、どんぐりの首飾り、  
 三島溶岩の観察  
 参加者：67人



### 郷土教室「こどもの日体験デー」

日 程：平成26年5月5日（月・祝）  
 内 容：大きなカブトを作ろう、折り紙でこいの  
 ぼりを作ろう  
 参加者：35人



### 郷土教室「古代の暮らし」

日 程：平成26年5月11日（日）  
 内 容：勾玉づくり、火おこし、土器当てクイズ  
 & 古代人風衣装を着よう  
 参加者：71人



### 郷土教室「昔のどうぐ」

日 程：平成26年6月8日（日）  
 内 容：石臼、かつお節削り、製麺機、  
 紙芝居の上演  
 参加者：68人

日付	内容
8月6日(水)	夏休み体験デー、古代の暮らし
8月10日(日)	昔のあそび、昭和の暮らし
8月23日(土)	クラフトづくり 機織り体験(小学4～6年生対象・要申込み)
9月14日(日)	昔のどうぐ
10月12日(日)	昔のあそび
11月9日(日)	楽寿園の自然
12月14日(日)	ワラ細工を作ろう

今後の郷土教室予定（毎月第2日曜日）  
 開催時間 10:00～12:00、13:00～14:30  
 みなさまの参加をお待ちしています。

## 三島の歴史とジオポイント・1

### 一日隅神社の大型石燈籠

「伊豆半島ジオパーク」の玄関口である三島市には、自然景観以外にも大地と地域の歴史を物語る石造物のジオポイントが多数存在するので、シリーズで紹介します。

三嶋大社の南東に鎮座する日隅神社は、火山の神・三嶋明神の主神ともされる事代主命の父親・大国主命を祀っています。

同社には、一対の大型石燈籠が参道の両側に窮屈そうに置かれています。

竿の正面には「常夜灯」と太字で彫り込まれ、裏面には「元文5歳（1740）庚申正月吉日」とあり、時代がわかる石燈籠では三島宿内で3番目の古さです。



日隅神社の大型石燈籠

この石燈籠は、大社に奉納されたものでしたが、1930年11月の北伊豆地震で上部（中台・火袋・笠・宝珠）が吹っ飛び破損したため、同社に移築されました。被災時の写真が残っています。

本燈籠の竿・笠・宝珠は元の石材からなり、伊豆半島では産出しない「黒雲母花崗岩」製です。

大社の大鳥居は安政大地震（1854）で壊れ、「小豆島」の花崗岩で作直されています。本燈籠の石材も、瀬戸内海方面からの搬入品でしょうか。

市内の古い石燈籠の石材は、ほとんどが伊豆石です。本燈籠は異質で目を引きます。

燈籠の基礎はコンクリートで作直され、奉納者は不明でしたが、「三島宿問屋場」の古文書記録（文政7年・1824）に、本燈籠が図入りで載っているのが最近確認できました。三島宿の有力者、朝日伊兵衛ら5名が奉納したものでした。

図では、竿の彫り込み文字は省略されていますが、基礎・竿・笠・宝珠の形は写真や本燈籠とよく似ています。

本燈籠の中台と火袋は、「小室石」と呼ばれる伊豆石で作直されています。産地は、旧大仁町・城山の南にあった石切り場です。岩石は、数百万年以上前、伊豆半島が南海の火山島群だった頃、噴火で海底に堆積した火山灰や派手な色合いの火山礫と一緒に固まった「火山礫凝灰岩」です。

小室石が三島で使用される例は珍しく、新谷の稲荷神社の石燈籠、順天堂大学保健看護学部構内の稲荷神社の礎石など、昭和30年～40年代のものが多く、中台と火袋もその頃以降に作り直されたと考えられます。

300年近い年月を耐え抜いた燈籠からは、伊豆の大地や三島宿の歴史を垣間見ることができません。燈籠を守ってきた先人達にも感謝です。



北伊豆地震で破損した三嶋大社の本石燈籠



問屋場記録に載る石燈籠

（郷土資料館運営協議会委員・増島淳）

## 郷土資料館運営協議会研修視察

- **と き** 平成26年 3月20日 (木)
  - **視察先** 富士山世界文化遺産構成資産のうち6箇所 (富士山本宮浅間大社、白糸ノ滝、人穴富士講遺跡、船津胎内樹型、北口本宮富士浅間神社、御師住宅旧外川家住宅)
- 郷土資料館運営協議会では、委員の研鑽と先進館の事例研究を兼ねて毎年研修視察を行っています。



富士山本宮浅間大社



白糸ノ滝



御師住宅旧外川家住宅

## 寄贈資料の紹介

平成26年3月から6月までに資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

- 三島市 櫻井 陽子氏 海軍双眼鏡 1点/履歴書(海軍) 1点/8ミリ映写機・カメラ 各1点  
 三島市 石川 美奈子氏 戦時報国債券 金五円 1点/戦時貯蓄債券 金拾五円 1点/  
 戦時郵便貯金切手 第18回 1点



海軍双眼鏡



8ミリ映写機



戦時報国債券



▲戦時郵便貯金切手

「戦時報国債券」「戦時貯蓄債券」は、太平洋戦争の戦費を調達するために臨時に国民に売り出された戦時債券です。昭和17年2月から2ヶ月ごとに売り出されました。「戦時報国債券」は無利子、「戦時貯蓄債券」は利子付きで20年間で償還することになっていました。「戦時郵便貯金切手」は、賞金くじ付の郵便貯金の債券でした。よく当たる、買った切手が弾丸の資金になることから「弾丸切手」の愛称が付けられました。

### 平成26年度 郷土資料館職員の紹介

館長 宮澤正敏

職員 加藤織江、平林研治、笹山曜子、大川裕代、樫村茜

### 郷土資料館のご利用案内

〒411-0036

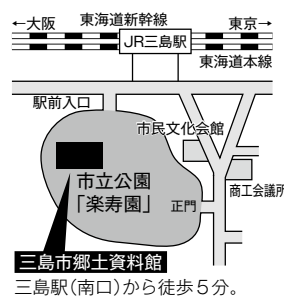
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内

TEL055-971-8228 FAX055-971-6045

開館時間 午前9時～午後5時(4月～10月)  
午前9時～午後4時30分(11月～3月)

休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌日)/  
年末年始

入館料 無料(ただし楽寿園入園料が必要)



三島市郷土資料館  
三島駅(南口)から徒歩5分。

### 郷土資料館だより

vol.37 No.1 (第109号)

発行日 平成26年8月1日(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館

発行 三島市教育委員会

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/